

授業改善のイメージ(英語科)

本年度の研究テーマ(2年次)

自身の学びを俯瞰し自己調整する自律した学習者の育成 ～「思考力・判断力・表現力等」の育成と評価方法の充実～

授業改善を行う単元とその評価規準(思考力・判断力・表現力等)

1年	2年	3年
「マチュー先生とクラスメイトに自分のことをもっと知ってもらうために、自分のヒーローを紹介しよう」 マチュー先生とクラスメイトに自分のことをもっと知るために、自分のヒーローについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。	「マチュー先生に附属中最高学年になる決意を書こう」 マチュー先生の来年の抱負の手紙に応えるために、自分の抱負について事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。	「小野ヤーナさんが附属中3年生に伝えたいメッセージは何だろう」 小野ヤーナさんが附属中3年生に伝えたいメッセージを読み取るために、簡単な語句や文で書かれた手紙の要点を捉えている。

「思考力・判断力・表現力等」の育成の方針

(1) 大切にしたい見方・考え方の明確化

外国語科の見方・考え方

「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」

- ・聞き手、読み手に配慮した英語表現をしようと心がけていること
- ・その時のコミュニケーションの目的・場面・状況にふさわしい内容を、適切な英語表現で伝えること

(2) 「見方・考え方」を働かせるための「見通し」と「振り返り」の場面の設定

①「見通し」をもたせる場面

○見方・考え方を働かせる発問の工夫

- ・単元のはじめにゴールアクティビティの具体を学習者に説明し、イメージを持たせる。
- ・内容面について、その時のコミュニケーションの目的・場面・状況に適する具体的な内容を班員と話し合わせたり、互いの考えを参考にさせたり、アドバイスを送り合わせたりすることで、目的・場面・状況に沿う内容を表現させる。

②「振り返り」の場面

- ・「今日の授業で学習した内容の内、ゴールアクティビティに活かせる内容は何か」「今日の自分の学習の取り組みはどうであったか」「今後さらに力を入れて学習すべきことは何か」という3つの視点で毎時間、学習者に振り返りをさせてることで、主体的に学習に取り組む姿勢や、粘り強く取り組む姿勢を育むことを目指す。

(3) 書く・話すのアウトプットの正確性と流暢性を兼ね備える生徒の育成

- ・教科書の内容構成にこだわらずに生徒の表現したいことに沿って多様な英語表現をインプットしたり調べさせたりすることで、アウトプットの豊かさを育成する。

評価方法の充実の方針

① 形成的評価

- ・単元の最初にゴールアクティビティを学習者に理解させるとともに、現時点でどれほどのことができるのか、何ができないのか、どんな知識・技能を獲得していくべきかを考えさせる。そのスタートから単元のゴールに向かう中の学習者の思考の変容をワークシートや振り返りシートで見取る。

② 総括的評価

- ・単元の終末に学習者にゴールアクティビティとしてパフォーマンステストに取り組ませ、その状況を評価する。
- ・パフォーマンステストでは見取ることができなかった内容を定期考查で評価する。